

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195003272		
法人名	社会福祉法人 恵和福祉会		
事業所名	グループホーム フルーツ		
所在地	北海道北見市北進町7丁目6番11号		
自己評価作成日	令和2年11月10日	評価結果市町村受理日	令和3年5月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>① 介護職員、看護師により、日々の健康管理や急な体調変化にもご支援させていただきます。</p> <p>② ユニットごとに、レクリエーションや外出行事を計画し、楽しみや喜びのある生活をご支援させていただきます。</p> <p>③ 日々の病院受診や送迎(無料)も常勤看護師が責任をもってご支援させていただきます。</p> <p>④ 福祉を担う社会の一員として、ご利用者様及びご家族の思いを尊重した『看取り介護』を援助させていただきます。</p> <p>⑤ 日常生活動作の低下予防に『理学療法士等』の評価や指導のもとリハビリ運動の援助をさせていただきます。</p> <p>⑥ 歯科医師、歯科衛生士の評価・指導のもと、個別性に合わせた口腔ケアの援助をさせていただきます。</p> <p>⑦ 管理栄養士と日々の栄養評価を行い、個別性に合わせた栄養管理や食事介助を行い『最後まで食べられる』援助させていただきます。</p>
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://mhiv.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0195003272-00&amp;Se">mhiv.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0195003272-00&amp;Se</a>
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和3年4月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>2020年4月に法人が変更となり、社会医療法人恵和福祉会の傘下となったグループホームフルーツは、2階建て2ユニットの事業所で、特別養護老人ホーム、デイサービスが併設されています。本来であれば各行事や、避難訓練、職員主体の委員会活動等が三事業所合で行われますが、コロナ禍の現在は、同じ建物内でも往来はせず書面会議や各事業所内での活動に限定し、感染予防に努めています。法人変更に伴い、事業所では看取り介護の実施へと舵を進め、利用者、家族への説明や希望の把握、医療面の確保、利用者の状況に合わせた研修と体制整備に努めています。又、系列の老人保健施設の理学療法士により定期的に生活機能評価が行われ、利用者に合わせたリハビリ運動を行い、運動機能向上に効果を上げています。更に、管理栄養士による栄養状態評価や歯科衛生士による口腔ケア等、法人の機能を活用した専門性の高い介護の提供に取り組んでいます。事業所では共通の法人理念及び、「共感し 寄り添い続ける介護を提供する」と掲げたグループホーム目標の基、ユニットそれぞれに目標を定め、個性あるユニット運営を行い、その中で、利用者の状況に合わせ映画鑑賞、おやつレク、歌を歌ったり、運動したりレクリエーション活動の充実を図り、利用者が毎日生き生きと、楽しく、穏やかにその人らしく過ごすことが出来る様に努めると共に、管理者である所長が看護師資格を有し、医療面等、様々な配慮を行いながら安心感のある介護の提供に取り組んでいます。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を主として事業所目標や施設特色を意識し管理者とスタッフは理念を共有し実践に努力しています。	法人理念、グループホーム目標に加え、各ユニット目標を設定し、ユニット入口のドアに掲示し浸透を図っています。管理者、職員は理念に沿い利用者の個性に合わせた介護の提供を心掛けています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の中で話し合いや施設行事等の交流にて取り組んでいます。	町内会に加入しています。コロナ禍以前には事業所行事に招待したり、実習生の受け入れ等地域との交流が行われており、現在でも、敷地内を地域住民が通ったりと近所付き合いが行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して地域の方々に理解して頂いています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見や要望など、参加者からあればサービスの向上に活かすように努めています。	利用者、利用者家族、町内会会長、民生委員、地域包括支援センター職員、行政職員等が参加し開催する事に成っていますが、現在は書面会議と成っています。	コロナ禍の為、一方的な書面会議になりがちですが、事業所運営に様々な外部の意見を活かすためにも事前に参加メンバーの意見や提案を求め、それらを掲載した議事録を作成し、全家族、参加メンバー、職員と共有して行く事を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	説明会に参加しサービスの質の向上に努めています。	電話やメールによる情報提供や不明な点は確認や相談する等、行政とは日常的に連携し運営に活用しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての事例を検討しながら理解をしていき、身体拘束をしないケアに向けて取り組んでいます。	指針を作成し、三事業所合同の身体拘束廃止委員会を開催しています。研修はユニットごとに年2回開催し、不適切な言動や身体拘束の及ぼす弊害に付いて学び身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より信頼関係を築き上げ、虐待につながるような状況にならないように管理者、職員がお互いに注意しあい、見過ごさないように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係者との話し合いで必要性があると思われる場合は支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約者に記載事項全て説明し、それ以外にも不安が残らないよう詳しく説明し契約を取り交わしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・ご家族より、ご意見・苦情を頂いた時は管理者・スタッフ間で話し合い改善に努めています。	毎月3事業所合同の事業所便りを発行しており、加えてグループホーム独自のユニット通信を発行しています。介護計画作成時にはこれまでの様子を記した手紙や写真で様子を知らせ意見や要望の把握に努めています。毎年、利用者、家族の満足度調査を実施し、結果を家族に知らせています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等にて意見交換を行い、提案を聞く機会を設け反映させています。	コロナ禍の現在は書面での会議の開催やユニット毎の研修の開催と成っていますが、申し送りノート等を活用して意志の疎通を図り、連携しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が各自、向上心を持てるような職場環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会、勉強会の機会を多く設けることにより、職員一人ひとりのケアの向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人職員や外部交流会等に参加し、同業者との意見交換が出来るように努めています。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時は、アセスメントなどの書類を参考にし、情報を把握し、ご本人のペースに合わせ信頼関係が築けるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用相談の段階からご家族の思いを受け止め、誠実に対応するように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの開始と同時進行で必要としている事を把握し、他のサービスも含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的な事を一緒にしていただいたり、教えていただいたり、関係性を大切にしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも面会に来られやすい環境と話しやすい職員の態度で接し、ご本人を支えていく関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に来られる環境作りをしています。	これ迄は知人や友人の訪問が有りましたが、現在は家族と電話で話をしたり、以前からの趣味の継続支援を行い、これまでの関わりや習慣を大切にした支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓テーブル、ソファの配置を工夫し、お互いに話しやすくレクリエーションが楽しめる環境に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ相談があった場合は、応じられるよう体制作りを整えています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	訴えはもちろん、表情の変化にも気付き耳を傾けご本人を尊重したケアに努めています。	管理者、職員は利用者との会話や様子から利用者の思いや希望の把握に努めています。意向の表明が難しい利用者でも日頃の関わりの中から意向のサインを把握したり、表明の方法を工夫し、意向の把握に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの聞き取りの中から生活歴を把握し、一人ひとりに合った支援を心掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で出来る事、出来ない事、少しの介助で出来る事を見極め判断しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃のケアのあり方をスタッフ間で検討しています。	利用者、家族の希望を基にモニタリング、カンファレンスを行い、関係者の意見を参考に、状況に即した介護計画を作成し、定期的に見直しを図っています。介護計画は常に見る事が出来る所に置いてあり、介護記録記入時には介護計画を意識して記入する様に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り、日誌、連絡ノートを作り情報の共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のその時に必要な受診に対し、行事等併設施設と協力しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議では民生委員、町内会の方々に参加していただいたり、ボランティアによる慰問で交流を持っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(常勤)看護師による日々の健康状態に合わせて、ご本人・ご家族の希望を大切に、希望のかかりつけ医にて治療が受けられるよう支援しています。	利用者の殆どの方は往診対応で、月1回の歯科の往診を利用されている方もいます。所長が看護師資格を有し24時間オンコール対応により利用者の健康管理が行われ利用者、家族の安心に繋がっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態変化に合わせて(常勤)看護職員に伝え、適切な処置や治療が受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(常勤)看護師により退院後も医師の指示のもとに毎日の医療的処置や通院体制が確保されているため病院との連携を図り早期退院に向けての支援を実施します。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご家族に説明し、重度化、終末期のあり方について同意を得ています。また、内部研修を実施しております。	入居時に利用者、家族の希望や意向を聞き、「重度化した場合における指針」「看取り介護に関する指針」により説明し、説明を受けた旨の同意書も交わしています。その人らしい生き方や尊厳に十分配慮しながら看取り介護を行うことを心掛けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員を対象に救急救命講習を行い、AEDも設置しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立ち会いのもと避難訓練を実施しています。また、内部で初動訓練を行い全職員が適切に行動できるように努力しています。	消防署立会いのもと自然災害(暴風・豪雨・洪水)により「避難準備高齢者等避難開始」「大雨レベル3」が発令されたと想定した避難訓練を実施しています。自然災害発生時における業務継続計画を作成し発生時に適切な対応を行い、その後も利用者に必要なサービスを継続的に提供できる体制の構築に努めています。停電時の寒さ対策として電気自動車の活用や毛布、湯たんぼなどが準備はされています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した言葉掛けを行い、プライバシーに配慮した支援に努めています。	利用者一人ひとりの自尊心を傷つけないよう心掛けています。居室での着替えやオムツ交換時などはカーテンを閉め利用者に羞恥心を感じさせないよう配慮しています。書類関係は適切に管理されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの前に意を確認し、表情などもくみ取り、意思を表出できる声掛けをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり体調などを考慮し、希望にそった支援が出来るよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の洗面ケア通じて身だしなみ等にも援助させて頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食事形態の把握に努め、きめ細やかな工夫を行い対応しています。	併設の特別養護老人ホームの管理栄養士によるバランスの取れた食事が届けられ、事業所では利用者一人ひとりに合わせた形態で提供されています。誕生日には利用者の希望の食事を提供し、畑で収穫した野菜などを取り入れながら職員と一緒に調理をしています。月1回の味噌汁作りやたこ焼きパーティー、クッキー・ピザなどを作り楽しく食事が出来るよう取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と共に栄養状態(体重・BMI・摂取量)の評価(スクリーニング)を行い個別性に合わせた適切な栄養や水分摂取して頂きます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしていただいています。ご本人のADLに応じて介助しています。また、必要に応じて歯科医師及び歯科衛生士指導の指導のもと個別性に合わせた口腔ケアを実施します。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、無理なく自立支援に向けた支援を行っています。	利用者一人ひとりの表情や行動の変化、サインを見逃さず、言葉を発することが苦手な方は音や文字などで意思表示をしています。理学療法士の指導のもと下肢筋力などのアップにより自立歩行、立位・座位保持に繋がり、不快な思いをさせないよう出来るだけトイレでの排泄を支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防になるように、おやつの内容に工夫をし、運動や腹部マッサージなど取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望、タイミングなどを見極めながら、安全面に配慮した浴槽内の工夫をし、清潔保持に努めています。	入浴は週2回を基本としており、利用者の体調や状態により2人介助や足浴、シャワー浴など柔軟に対応して清潔保持に努め安心して楽しい入浴になるように行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調の変化など、細心の注意をして状況に応じ、休息していただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(常勤)看護師管理のもと個人ファイルに処方内容を入れ、スタッフ間で情報を共有し、変更があればその都度確認しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個人の出来る事、好きな事を聞き出し、新たにに関心が持てそうな事を提案しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎年の外出行事でご家族が同行出来る方は参加していただけるようにしています。	コロナ禍の影響で外出は行われていませんが、天気の良い日には事業所の畑で収穫などを行い外の温度や空気を肌で感じ気分転換になるよう取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談しながらご本人の能力に合わせ支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などは、希望に応じ支援しています。現在はタブレット面会も取り入れております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内に季節感のある飾りつけに工夫しています。季節に合わせた温度・湿度の管理には注意を払っています。	居間は季節を感じられるよう年中行事の飾りつけが行われています。利用者の安全を第一に考えた配置がなされていたり、ゾーニング空間を作り感染防止対策を万全に備えています。施設内でのお祭りや映画鑑賞、カラオケなどを楽しみ笑顔で過ごせるよう工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人と席を近くにしたり、席の工夫をしています。ジュータンの上で過ごされるのを好まれる方は、その様な空間を作っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、その人らしく安らげる部屋作りをご本人とご家族と相談し、居心地の良い居室になるように工夫しています。	居室で居心地よく寛げるよう使い慣れた家具などが持ち込まれています。携帯で家族と連絡を取ったり、編み物やチラシでゴミ箱作り、花が好きで花を育て咲かせるのが上手く皆に喜ばれたり今までの生活習慣が継続できるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮し二人対応で介助することもあります。自立と安全が両立出来るように、家具の配置に配慮しています。		